



神奈川大学フロンティアクラブ会報

発行日 2013年10月1日
 編集・発行 神奈川大学フロンティアクラブ
 組織・広報専門委員会
 事務局 神奈川大学 総務部校友課内
 〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1
 TEL.045-481-5661(代)
 FAX.045-481-2741

第 20 号

まずは、フロンティアクラブの活動に温かいご支援、ご協力を頂いている皆様に厚くお礼を申し上げます。

東日本震災後2年半余りが経過しましたが、今なお多くの方々が厳しい避難生活に耐えながら、震災・原発事故からの復興に全力をあげておられます。被災された母校の先輩やご親族の方々をはじめ、関係の皆様に対し、改めてそのご労苦に心から労いとご健闘をお祈り申し上げます。

こうした中で、神奈川大学は引き続き被災学生へのきめ細かい支援、加えて全学を挙げての「ボランティア駅伝」の推進など、粘り強い活動が続けられています。昨年8月刊行の「大学生ボランティアの糧を繋ぐ」、またDVD映像に、これらの感動的な記録が残されました。心の糧を繋ぐ活動として、今後も息長く



より良質な教育環境づくりに貢献を 〜本年度事業計画の推進に当たって〜

神奈川大学フロンティアクラブ会長 鈴木 実

(35貿易卒)

継続されることを願う次第です。

わがフロンティアクラブの使命も、こうした災害関係の支援、またこれまでの奨学金協力の絆・糧をしっかりと繋ぎ、なお一段の活動促進を図らなければと思えます。その主旨から、今年も従来の「村橋フロンティア奨学金」に加え、被災学生を対象にした奨学金の給付を2月総会でご賛同頂きました。皆様のご支援に心から感謝致しております。

□経済環境好転への期待

ご高承の通り、日本経済はこれまで「失われた20年」と言われる長期のデフレから脱却できずにきました。そうした中で、安倍政権は第1の矢(金融緩和)と第2の矢(財政出動)で、経済再生の糸口をつかみました。その糧は第3の矢(成長戦略)につないで、今度こそ「長期デフレ経済」と決別するチャンスを迎えております。消費税増税と経済成長を両立できる効果的

な施策が実行できるのか、正にここがアベノミクスの正念場です。

それには政府が民間の創意工夫を生み出す環境づくりを強力に推し進め、民の努力によって持続的な経済成長の実現を目指すことが大事と考えます。そしてその成果が先ずは、災害復興や未だ厳しい雇用や賃金実態の改善に反映され、結果として国民の皆が真に国力回復を実感できる経済環境が醸成されていくことを期待したい。正に今こそ政・官・民一体となった「強い絆」が求められるタイミングと言えるのではないのでしょうか。

□大学を取り巻く情勢

さて、皆様ご承知の少子化が益々進む中で、各大学間の志願者確保競争は熾烈化を極めてきています。また依然厳しい就職状況、存続の正否が問われる法科大学院、時代のニーズ高まるグローバル人材の育成、片や縮小する国家補助金等々、安定した大学経営を

行っていく上での課題は山積です。こうした難しい環境下で本学では、今、「将来構想中期実行計画」を着実に実行しつつ、競争力の一層の強化に全力が注がれています。

最近の新聞報道によると、文科省は地域・産学連携など学園改革に積極的に取り組む私立大学に対し、特別補助金の付与等も検討されておられ、我々卒業生も今後こうしたカテゴリーの中で、大学に少しでも協力を出来る何らかの題材と活動を見出し、いかなければと思えます。

□当クラブの活動状況

このような現状認識に立ち、我がフロンティアクラブも引き続き本来の使命に沿っ



平成25年度 村橋・フロンティア奨学金授与式開催される

平成25年7月9日横浜キャンパスにおいて平成25年度 村橋・フロンティア奨学金授与式が開催されました。本年度は、大学院生3名を含む10名と東日本大震災の被災学生を対象とした「特別奨学生」3名が採用され合計13名の学生に奨学金が授与されました。



奨学生代表として野口さん(大学院建築学1)は、「将来、設計事務所を設立し、お世話になった家族や友人へ恩返しをしたい。この夢を実現するために、この奨学金は大いに力になる。奨学生として誇りと責任を持ち、恥じる事のない学生として大学生活を送っていきたい。」と謝辞を述べました。

第19回 神奈川大学ホームカミングデー開催のご案内

このたび、日頃大学にご支援くださる卒業生の皆様への感謝の意を込め、旧師や旧友、そして母校神奈川大学との絆を深めていただくことを目的として、神奈川大学ホームカミングデーが開催されます。

ぜひこの機会にお越しいただき、秋の一日を母校で楽しくお過ごしください。

ホームカミングデー(横浜キャンパス)は、社団法人宮陵会(校友会)の協賛を得て、卒業後50年以上、35年、20年、10年及び本年3月卒業の方々を毎年ゲストとしてお招きしています。



【日時】2013年10月20日(日)12:00～
 【会場】神奈川大学横浜キャンパス体育館
 【問合せ先】神奈川大学 ホームカミングデー実施事務局 電話:045-481-5661(代)/FAX:045-481-2741

リニューアルオープンしました!!

神奈川大学箱根保養所のご案内

箱根金時山のふもと、仙石原にあります箱根保養所は、皆様もご利用頂けます。是非ご家族でおでかけください。2013年3月にリニューアルオープンいたしました。

- ご利用料金** ご宿泊1泊2食付き
大人(中学生以上) 6,090円 子供(小学生) 2,625円
- 箱根保養所** 〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町大字仙石原1104-1 TEL:0460-84-9611
- アクセス** ・バス利用の場合 小田原駅前/仙石経由湖尻行き仙石下車徒歩10分
・お車利用の場合 東名高速道路/御殿場I.C.(国道138号線)より約20分
・高速バス利用の場合 小田急高速バス箱根線新宿駅/太郎平下車徒歩1分
- お申込み・お問い合わせ** 直接箱根保養所へご連絡ください。
ご利用の詳細等につきましては、箱根保養所ホームページでご確認いただけます。
URL: <http://www.jindai-hakone.com>



神奈川大学フロンティアクラブ 第3回箱根交流会

ゴルフと紅葉・温泉を楽しむ会のお知らせ

初秋の候 みなさまには、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
さて、フロンティアクラブ交流会1つとして下記の通り、ゴルフの会と紅葉の美しい箱根保養所で温泉を楽しむ企画を立てました。たいへんお忙しい時期とは存じますが、万難を排しお誘い合わせの上、ご参加下さいますようご案内申し上げます。

— 記 —

日 時 平成25年11月22日(金)～23日(土)

* ゴルフの会 (小雨決行)

11月22日(金) 現地集合 AM8時20分 (挨拶ルール説明 8時45分 IN練習グリーン横)
会 場 〒412-0024 御殿場市東山2,472
富士カントリークラブ TEL 0550-82-1616
プレー費 11,700円 (キャディー付き食事別)
会 費 3,000円 (賞品等)
参加資格 フロンティアクラブ会員、神奈川大学教職員、神奈川大学卒業生。
募集人員 8組 (32名) スタート9時01分 OUT, INより4組
老いも若きも上手な方もそうでない方も明るく楽しく和やかにプレーしましょう。

富士カントリークラブの紹介

東名高速御殿場インター第2出口より右折して信号1つ、2Kmに位置しています。霊峰富士山を望む名匠赤星四郎設計。御殿場では戦後初めての昭和33年開場。クラブハウスは山小屋風で有形文化財。自然を生かした手作りのコースで各ホール個性と戦略性があり易しそうで難しい飽きのこないゴルフ場です。

* 宿泊温泉を楽しむ懇親の会

神奈川大学箱根保養所

〒250-0631 箱根町大字千石原1,104-1 TEL 0460-84-9611

宿泊代 8,000円 (お酒、特別料理込)

集 合 11月22日(金) PM5時までに。

(チェックインは、PM2時より出来ます)

懇親会・ゴルフ表彰 PM6時30分より

(富士CCから保養所まで 8.6km 信号1ヶ所 約15分)

11月23日は、箱根の紅葉を楽しんで帰路となります。

申込みは、10月22日までお願い致します。

(申込用紙は別紙)

ご都合によりゴルフ会だけの参加、温泉を楽しむ懇親の会だけの参加も大歓迎です。
尚、詳細につきましては、別途ご案内いたします。



以 上



た活動を推進しております。
○奨学金協力のための募金活動
厳しい経済情勢の中ではありますが、皆様のご協力のおかげで、これまでの奨学金に加えて、昨年に引き続き「被災学生への支援奨学金」にも協力(7月9日授与)することが出来ました。受給学生からは深い感謝の気持ちと勉学への新たな意欲と決意が示されています。皆様の心からのご支援に改めてお礼申し上げます。本年度も引き続き、募金活動の推進に努力して参りますので、どうかよろしくご支援・ご協力をお願い致します。

○産官学共同事業
II フロンティアサロン
発足以来サロン開催は70回を重ねました。本学教授、また成長企業で活躍中のOBを講師としたセミナーなど、大

変興味深い有意義なサロンが続いています。産官学共同専門委員会は2ヶ月に1度の開催に大奮闘です。共同事業のステップとして本サロンの一層の充実を工夫を凝らして参りますので、どうか皆様の積極的な参加とご意見をお願い致します。

○活発な相互交流と会員の増強
運営委員会はこの一年余り、これまでの当クラブを振り返って、「今後の活動を一層活性化するにはどうしたらよいか」の議論を重ねました。母校への支援活動は、取りも直さず多くの卒業生の方々の参加と会員相互間の活発な交流なしには果たし得ないことを改めて確認し合いました。その為には、社会の第一線で活躍中の新会員も加えて、行事機会を活発に持ちながら、会員間の交流を更に広げ深めていかなければと考えます。

私事になりますが、今から50余年前、日本が高度成長に入る一歩手前の厳しい情勢下、私は経済的事情で育英会奨学金を受けながら往復8時間の遠距離通学で神大生活を送りました。この間、私の胸に強く刻まれたのは、「経済原論ゼミ」の教授から得た教訓でした。「学問には常に謙虚であれ」「不遜な態度を慎

み、上辺だけの理解に止まらずその真髄に迫る。この精神は何も学問に限らず、社会人としての活動全てに通ずるものとの教え。いざ実行はなかなか難しい事ですが、私の「座右の銘」の一つとして大事にしてきました。もう一つはゼミ仲間との友情。今日まで幾多の困難な局面や、健康面の苦しみを乗り越えてきた仲間達へ今もって何かに付け、互いに励まし、支えあう強い絆を保ち続けています。神大時代に得たこのかけがえのない財産、「生涯の宝」と、改めて噛み締めています。

卒業生夫々が、学生時代を振り返って、「神大に学び素晴らしい先生や友人にめぐり合っただけに幸せだった」と、己の誇りに出来るような、そんな母校・神大であり続けて欲しいと願うものです。

会員の皆様、どうか当クラブの活動が「学生支援を柱にした母校の良質な教育環境作りに貢献している」ことを改めてご認識頂き、このフロンティアクラブを真に魅力あるものに育て発展させていただけますよう、倍旧のご支援・ご協力をお願いする次第です。

最後に皆様方の一層のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

【フロンティアサロン活動紹介】

(開催：5月22日)

第72回フロンティアクラブ産学交流サロン

テーマ：「横浜キャンパス(仮称)新3号館新築工事事例紹介」

「最近の建設業界における話題性のあるテーマ紹介」

講師：鹿島建設株式会社 杉本 健太郎 氏 (S63 工学部建築学科卒業)



私は1988年に神奈川大学工学部建築学科を卒業しました。鹿島での25年間の大部分は施工管理に従事し、残りは研究部門他を経験しました。この間、超高層ビル、学校、研究施設他、大小24棟の建設に携わり、1999年には横浜キャンパス23号館新築工事にも参画させて頂きました。

1. 新3号館新築工事

ここでは大学ニーズを把握した上で、いかにして工事を遂行するかについて紹介させて頂きました。新3号館は、創立100周年に向けた神奈川大学将来構想の元、講義・展示機能などを備えた新棟を建設することと伺っています。

- 新棟コンセプトとしては、次の4つが挙げられています。
- ①定員・カリキュラム多様化に伴う授業・講座への対応
 - ②少人数教育や演習室不足など時代要求への対応
 - ③旧棟設備老朽化や室の大きさなどの対応
 - ④防災拠点機能、教育施設、研究施設、地域開放施設の融合
- 工事をを行うにあたり、上記のニーズを的確に捉え、『施工運営方針』として、①所長方針、②施工体制、③工事計画を定め、日々の活動を行っています。以下にそれぞれの内容を示します。

『所長方針』：関係者一体となって工事を進めるために、計画段階で関わられた方の思いを理解し、それを具現化させるべく、コミュニケーションの機会を多く持ち、その上で『学生様を傷つけない』『近隣様へ迷惑をかけない』『学校機能を満足させる建物を造る』ということを確認し、次の三つの軸のもと、対応を行っています。①地域・学内への配慮、②安全・品質・工期・環境確保、③コストミニマムの追及

『施工体制』：鹿島各部署が連携し、プロジェクトを進めます。技術部署の支援により最先端の技術支援を適宜実施します。

- 『工事計画』：計画については、
- ①学生様・近隣様への配慮
 - ②品質管理
 - ③工程管理
 - ④安全管理・環境管理
- ⑤コストミニマムを追求する様々な取り組み等について具体的内容を定めて運営していきます。

これらをもとに、関係の皆様のご指導ご協力を頂きながら、現在、工事を進めています。平成26年2月の完成に向け、今後も努力を惜しまぬ所存です。

2. 「最近の建設業界における話題性のあるテーマ紹介」

①超高層建物体体工法

1986年以降、土地有効利用を目的に超高層ビルが多く建設されました。多くの年月が経過し、耐震性、老朽化、IT化への対応など、リニューアル・建替需要が増えてきています。ここでは、一般解体工法とは発想を変えた、下階よりダンプ落としのように超高層ビルを解体するユニークな解体工法を紹介しました。

②東京駅丸の内駅舎保存・復元工事

1914年に創建された当該建物は、震災により屋根・内装を焼失。戦後3階建駅舎を2階建に復興されました。今回工事は現存する駅舎を可能な限り保存し、失われた部分を創建時の姿へ復元する一方、地下躯体を新設し、巨大地震にも耐えうる建築とするため免震工法が採用されました。ここでは本工事を、復元、保存、新設に分けて紹介しました。

3. おわりに

この度は、大変貴重なお時間を頂き、誠にありがとうございました。本発表が、皆様のご参考になれば幸いです。